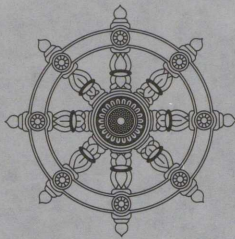


1961年1月16日第3種郵便物認可 1996年6月1日 第419号 (毎月1回1日発行1部50円)

(加盟団体関係者の購読料については、負担金に含まれている。)



全 仏

仏曆2539年6月
(1996年)

NO. 419



マヤ堂発掘現場の遠景

財団 法人 全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

理事会 開催



京都グランドホテルで開催された理事会

去る五月三十一日午後二時から、京都グランドホテルで理事会が開催された。最初に、

白幡理事長を議長に、伊藤襄爾、白川謙敬の両師を議事録署名名人に選出し議事に入った。

議案第一号「平成七年度事業報告について承認を求める件」

白幡議長より上程、田中総務部長が説明、原案通り承認された。

議案第二号「平成七年度収支決算について承認を求める件」

白幡議長より上程、鷺尾財務部長が決算書を詳細に説明、山田俊和監事が監査報告を行った後、原案通り承認された。

議案第三号「平成七年度ルンビニー園復興計画事業報告並びに中間収支について承認を求める件」

白幡議長より上程、吉橋国際文化部長、鷺尾財務部長が説明、質疑応答の後、原案通り承認された。

議案第四号「阪神・淡路大震災義援金の収支について承認を求める件」

白幡議長より上程、鷺尾財務部長が説明、原案通り承認された。

議案第五号「全日本仏教会財団創立四十周年記念事業について」

白幡議長より上程、説明。明年、記念事業を行う方向で検討を進めることになった。

議案第六号「負担金の改正について」

白幡議長より上程、鷺尾財務部長が説明、今後、負担金検討委員会を作って、協議していくことになった。

協議事項

①国政選挙における候補者推薦基準について
野生司社会部長が選挙に当たっての候補者推薦の経緯を説明。今後については、出席者から、様々な意見が出された。

②ルンビニー園復興事業の今後について
川井ルンビニー委員長から、現況と展望が報告された。

報告事項

①宗教法人審議会について
白幡理事長より報告された。

②事務総局各部報告
各担当部長より報告された。

法律相談室

長谷川正浩弁護士による無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局（〇三―三四三―七一九二七五）へ事前予約の上おいで下さい。

平成7年度 財団法人全日本仏教会 収支決算

I. 収入の部

(単位：円)

科	目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 負担金		94,646,000	93,077,400	1,568,600	
	1. 宗派負担金	84,584,000	83,771,400	812,600	
	2. 都道府県仏教会負担金	8,946,000	8,190,000	756,000	
	3. 各種団体負担金	1,116,000	1,116,000	0	
2. 未納徴収金		1,000,000	531,000	469,000	
3. 寄付金		1,000,000	0	1,000,000	
4. 基金果実		700,000	395,291	304,709	
5. 雑収入		6,000,000	6,730,889	△ 730,889	『全仏』誌協賛金、手帳代等
6. 退職積立金取崩		2,560,000	2,560,000	0	
7. 全日本仏教会議積立金取崩		2,500,000	2,500,000	0	
	当期収入合計 (A)	108,406,000	105,794,580	2,611,420	
	前期繰越収支差額	10,000,000	11,500,641	△ 1,500,641	
	収入合計 (B)	118,406,000	117,295,221	1,110,779	

II. 支出の部

(単位：円)

科	目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
1. 事務総局費		82,380,000	79,387,523	2,992,477	
	1. 人件費	58,080,000	57,985,598	94,402	
	1. 給 与	42,400,000	42,400,000	0	本給、賞与
	2. 手当	7,760,000	8,079,620	△ 319,620	職務手当、通勤費
	3. 厚生費	2,800,000	2,385,978	414,022	健康保険、厚生年金等
	4. 退職金 (退職積立金)	5,120,000	5,120,000	0	
		0	0	0	
	2. 事務費	12,700,000	11,641,597	1,058,403	
	1. 借 室 費	4,600,000	4,300,000	300,000	
	2. 光 熱 費	1,700,000	1,824,278	△ 124,278	電気・水道・管理料
	3. 通 信 費	2,000,000	1,728,766	271,234	
	4. 印 刷 費	1,300,000	864,210	435,790	予決算書等
	5. 備 品 費	1,700,000	1,598,087	101,913	事務機リース代等
	6. 諸 費	1,400,000	1,326,256	73,744	事務用品費、新聞購読料等
	3. 旅 費	3,300,000	3,132,730	167,270	出張旅費
	4. 調 整 費	2,000,000	1,765,935	234,065	手帳・花まつりポスター調整費
	5. 共通事項処弁費	4,300,000	2,861,663	1,438,337	日宗連関係費、顧問弁護士料他
	6. 関西事務局費	2,000,000	2,000,000	0	
2. 総務部費		6,400,000	4,025,010	2,374,990	
	1. 会 議 費	3,600,000	2,276,053	1,323,947	
	1. 理 事 会 費	1,400,000	982,456	417,544	
	2. 評 議 員 会 費	500,000	290,769	209,231	
	3. 諸 会 議 費	1,700,000	1,002,828	697,172	各種会議費
	2. 渉 外 費	1,800,000	1,154,496	645,504	慶弔費等
	3. 調 査 研 究 費	1,000,000	594,461	405,539	資料費等
3. 財務部費		1,700,000	336,903	1,363,097	
	1. 税 務 対 策 費	1,700,000	336,903	1,363,097	税務委員会費等
4. 同和推進部費		6,000,000	4,790,198	1,209,802	
	1. 同 和 推 進 費	4,000,000	2,873,676	1,126,324	加盟団体代表者同和研修会費等
	2. 同 和 委 員 会 費	2,000,000	1,916,522	83,478	同和委員会費、業・施設問題研究会費等
5. 社会部費		12,000,000	10,024,041	1,975,959	
	1. 時 局 対 策 費	1,500,000	607,201	892,799	信教の自由に関する委員会費、教化セミナー開催費等
	2. 組 織 強 化 費	5,000,000	3,988,090	1,011,910	
	1. 組 織 強 化 費	1,500,000	784,974	715,026	都道府県仏教会代表者会議費等
	2. 全日本仏教会議費 (全日本仏教会議積立金)	3,500,000	3,203,116	296,884	埼玉大会費
		0	0	0	
	3. 機 関 誌 発 行 費	5,500,000	5,428,750	71,250	『全仏』誌印刷・発送・取材経費
6. 国際文化部費		4,700,000	3,784,105	915,895	
	1. 国 際 交 流 費	4,200,000	3,784,105	415,895	
	1. 国 際 交 流 費	3,000,000	2,590,123	409,877	日伯修好100周年記念講演会代表者派遣経費等
	2. W F B 関 係 費	1,200,000	1,193,982	6,018	WFB 執行委員会参加経費等
	2. 文 化 諸 費	500,000	0	500,000	
7. 「仏舍利」基金		2,500,000	2,500,000	0	
8. 基本金繰入金		500,000	500,000	0	
9. 予 備 費		2,226,000	0	2,226,000	
	当期支出合計 (C)	118,406,000	105,347,780	13,058,220	
	当期収支差額 (A)-(C)	△10,000,000	446,800	△10,446,800	
	次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	11,947,441	△11,947,441	

ルンビニーの歴史と石板発見の意味

駒沢大学学長 奈良康明

本会では、一九九二年（平成四年）より、お釈迦さまご生誕の地、ネパール王国ルンビニーへ、元立正大学講師の考古学者、上坂悟氏を派遣し、マヤ堂の修復事業に伴う考古学調査を行ってまいりました。

本誌でも既報のとおり、この発掘調査によって、お釈迦さまが誕生された最も神聖な地点として伝承・礼拝されてきたマヤ堂内陣直下より、マウリヤ期の構築物・遺物と共に、何かを象徴するために意図的に置かれたと思われる石板が発見されました。

前号では、去る三月二十八日、東京で開催

ルンビニーの歴史的な枠組みを簡単に申し上げておきたいと思えます。

ルンビニーは、現在ネパール領であり、釈尊ご誕生の地として知られております。文献的にも釈尊がルンビニーでお生まれになったということは一番古い文献に出ておりまして、全く疑う余地はございません。

されましたマヤ堂考古学調査記者会見の概略をお伝えしました。今号では、本会ルンビニー委員会顧問・奈良康明駒沢大学学長による記者会見でのルンビニーに関しての歴史的・文化的背景についての解説の詳細を掲載いたします。

奈良学長の解説は、今回発見された石板についての学術的に貴重なご意見であると共に、私たち仏教徒としても、改めてお釈迦さまとそこご生誕の地であるルンビニーへの思慕、憧憬の念を深く感じさせられるものであります。（文責・国際文化部）

釈尊が幼少期を過ごされたのは釈迦族の居城であったカピラバストウという町であるといわれております。このカピラバストウという町の候補地が現在二カ所考えられております。そのいずれかという問題が、学問的にも興味があるのですが、それは一応今別にしてルンビニーについてお話し申し上げます。

釈尊のお母さま、マヤー夫人は居城（カピラバストウ）を出られまして、道をほぼ東にとり、恐らく自分の生まれ故郷のコーリヤ族の実家に戻られる途中だったのではないかと思われます。言わば里帰りという説が強いのであります。そこでルンビニーにちょうど通りかかったところで産気づかれ、釈尊を出産されたということは、ほぼ歴史的な事実として考えてよろしいものかと思えます。

実は、欧米における仏教研究の歴史の中で、古い文献が明らかになりましたから、釈尊の存在とか、仏教とは何であるか理解されていたのですが、一方では釈尊は太陽神話の一変形であるとか、ビシュヌ神話のモデルをまねたものではないかとか、という疑いが一部、欧米の学者の間で持たれていました。

釈尊が歴史上の人物であるということは、私ども、インド・東アジア・中国・日本の仏教徒にとりましては当然のこととして受け入れているのですが、欧米の学者の方ではそれに疑いを持っていた時期がございました。

それがはっきりしたのは実は、ルンビニーの考古学的な発見、これは約百年前になりましたが、一八九六年、フューラーという考古学者がルンビニーを考古学的に発掘しました時に、そより石柱（アシヨカピラー）が出てまいりました。アシヨカピラーを建てたアシ



マヤ堂発掘現場での奈良学長(右)と上坂悟氏

ヨカ王とは、マウリヤ王朝の第三代目で、初めて全インドを統一した王様であります。初め、いくなれば、大体、北インドから南インドまでを統一した最初の王様ということで、非常に広大な地域を支配いたしました。そして、その主要な地に石柱を建てて、その石柱の横に自らの政治理念である法勅文(石柱碑文)を刻みまして、全部で四十数カ所にその碑文が彫つてあるわけですが、西暦前三世紀に刻んだものがそのまま残っているようですから私どもにとっては歴史研究の非常に有力な証

拠で、有り難い史料となります。

そのルンビニーに石柱がございます。高いものでありますが、上から三分の一のところまで折れておりまして、先端がなくなつておりました。そこでその碑文が彫つてある部分に明らかに『アシヨカ王は即位灌頂をした後、二〇年目にここへ来ておまつりをした。ここで仏陀、釈迦牟尼が生まれたからである。そしてそこに石の柵、石柵を作り、石柱、石の柱を建てさせた。釈尊がそこで生まれたのを記念するためである。ルンビニー村は税金を免除され、八分の一のみを払うものとする。』とおおよそこういった主旨のアシヨカ碑文、ルンビニー碑文がここに刻まれておりました。

ここで初めて釈尊という方が歴史上の人物であったということが世界の学界で認められたという、非常に歴史的な出来事でございます。実は、七世紀に玄奘三蔵も中国からルンビニーに入りまして、ここにお参りをしておりまして、その時にやはり、アシヨカ王柱の存在を「大唐西域記」の中で述べておりまして、ここで釈尊が生まれたのだと大変に感激の面持ちで報告をしております。その時にアシヨカ王柱の上から三分の一の所は折れていると書いてあるのです。悪龍の雷撃のために、つまり稲妻のために折れたらしいのです。アシヨカ王柱というのは世界各国、インド

各地に何本かあるのですが、必ずその上に動物の柱頭彫刻をのせることになっておりまして、玄奘三蔵はそこに馬の彫刻がのつていたというふうに書いてあります。ところが、現在はその石柱の上の部分がなくなつておりますけれども、どうもその馬のたてがみの一部ではないかというのが実はその後、考古学的に発掘されておまして、上坂先生(本会派遣考古学者)はまた、それに類したものを新たに発見をされております。間違いないと思います。そうしたことからこのルンビニーが釈尊ご誕生の土地であるということが明らかになってきているのです。

そこでアシヨカ王が来てその石柱を建て、自らその石柱の碑文に石柱を建てたことを書き、そして、先ほど私はこれを石の柵を作つてと仮に訳したのですが、これが実は学者の間では大問題となった箇所でございます。

正確な読み方が分からないのです。石の柵なのか、石の板なのか、それとも石の彫刻なのか、もし必要ならば後で幾つかの学説をご紹介いたします。そのようなことがございまして石柱は残っているのですが、その石柵というのがわかりませんでした。

さて、現在になりますと、その石柱がございましてその前にマヤ堂という建物がございます。

マヤ堂の少し高くなった基壇上に菩提樹がございまして、話しがそれてしまいましたが、私はカルカッタ大学へ今から三十数年前に留学していたころ、ルンビニーに行った時にはマヤ堂に比較的こぢんまりした菩提樹があったことを思い出します。それが、その後、三十数年たつてきましたらものすごく大きくなってきて、遠くから見るとマヤ堂がひっくり返りそうな大きさになっており、側へいきますと、その根が建物をどんどん壊している。そんなことからマヤ堂の修復、そのためにこの菩提樹を取り外さなければならぬというようなお話が続いてくるわけです。そのマヤ堂に十世紀ぐらいの古い、釈尊ご生誕の浮き彫り彫刻などがございまして、そこがマヤ堂の中心地であるわけです。

さて、今までマヤ堂の上部構造物は一、二回、考古学的に発掘されておりましたが、深いところまでの調査は行われておりませんでした。そしてこれが、かなり昔に建てられたお寺で、その上に何回も時代ごとに建築が上積みになされていったということはおおよそ分かっていたのですが、詳しいことは分からないう。そこでネパールとの調印合意の後、全日本仏教会による考古学的な発掘が始まったというございまして。

一昨年(1994年)の二月二十四、二十五日の両日、ル



現在のマヤ堂発掘現場全景

ンビニーにおいて、第一回マヤ堂修復専門家会議が開催されました。この国際会議の時には、上坂先生が中心になって行っている発掘がまだ途中でありました。しかし、途中ではありましたが、大体マウリヤ王朝期の辺りまで掘ったと。これ以上掘っても恐らく何も出まいなどという予想もございました。

そして、むしろその時には、この後どのような形で新マヤ堂を建てようかという相談もしたいというようなことで、ネパール、それ

から全日本仏教会の意向もあったのですが、その専門家会議に出席した学者たちが非常に強く主張したのは、とにかくマヤ堂の中心地は釈尊生誕像の浮き彫りがあるところだと分かってる。その浮き彫り彫刻のある地点が恐らくそのお堂の中心なことから、そこを真下まで掘ってみよう。掘ってみても何も出なかつたら、埋め戻すより仕方がない。そして世界の仏教徒もここまでやったけど何も出なかつた、仕方がないっていうので埋め戻して、新たな崇拜の対象としてのお堂を再建しても別に反対もないだろう。しかし、とことん掘ってみてもしかなかったら、まさにこの木の下で、お釈迦さまがお生まれになったという木の木炭ぐらい残ってるかもしれない。石柱を建てたというアシヨカ碑文は分かっていたが、石の柵と訳されている部分なんだから分からない。石の板かもしれないじゃないか、石の彫刻かもしれないじゃないかと、いろいろな意見があるのですが、何か出てくるかもしれない。出てこないかもしれない。

しかしとにかく、掘れというので掘ったら実は石板が出てきたというのが今回の発表のメインテーマになります。ですから、この発掘が現在まである程度、新聞などでも出ておりましたが、ルンビニーがお釈迦さまのお生まれになった所であるということが確実に

ルンビニー園マヤ堂関係略年表

B.C.		
7	600	
6	500	
5	400	
4	300	シャカムニ (BC463~BC383)
3	200	マウリヤ朝
2	100	アショカ王在位 (BC268~BC232) ルンビニーにアショカ王柱建立 (BC249) マヤ堂にマウリヤ期の遺構あり
1		シュンガ朝
A.D.		
1	100	クシャーナ朝
2	200	
3	300	
4	400	グプタ朝
5	500	法顕 (339?~420?) 『法顕伝』ルンビニーの記述
6	600	
7	700	玄奘 (602?~664?) 『大唐西域記』ルンビニーの記述
8	800	
9	900	
13		13世紀に西ネパールのマラ王が参拝 アショカ王柱に銘文あり
18	1900	フューラーによるルンビニー発見 (1896)
19	1912	河口慧海ネパール入国 現在のマヤ堂建立 (1930年代)
	1967	国連ウタント事務総長ルンビニー開発を提唱
	1975	ネパールルンビニー園開発委員会組織される
	1978	第12回 WFB 日本大会 ルンビニー復興宣言決議
	1980	全仏第1回ルンビニー復興準備委員会開催
	1982	3億7千5百万円の事業費承認される
	1985	LDT (ルンビニー開発トラスト) 設置
	1990	マヤ堂修復協定書調印
	1992	修正マヤ堂修復協定書調印 (8月) 全日本仏教会による考古学調査開始 (12月)
	1994	第1回専門家国際会議 (3月25、26日)
	1995	マヤ堂内陣直下より石板を発見 (2月17日) 第2回専門家国際会議 (3月15日、16日) 奈良康明学長現地視察 (4月15~20日)
	1996	日本における専門家会議 (4月27日) 記者会見 於: カトマンズ (2月4日) ネパール国王マヤ堂発掘現場視察 (2月6日) 記者会見 於: 東京 (3月28日)

なったという記事がある。これは私どもには、誠に不本意なのでありまして、ルンビニーがお釈迦さまのお生まれになった土地であるというのには百年以上前から分かっていて、そうじゃなくて、アショカ王の碑文に載っている詩、石の柵なのか何なのか。それかもしれないという石の板が出たということと併せても、その石の板の出方、そうした部分によっ

てここがそのマヤ堂のやはり最も中心であり、聖なるスポットなんだということはずいぶん違いなしに言えるものですから、ルンビニーが釈尊のお生まれになった土地だということをも更に超えて、一つにはアショカ王の碑文に載っている石柵ないし、石板の意味が明らかになったというのが一点。もう一点はとにかく伝承として、正にこのスポットこそが、お釈

迦さまのお生まれになったと伝承されている地点と見ていいのではないか。この推測を可能にする考古学的発見がなされたという、以上の二点が今回の発掘の大きな主要なポイントになってくるということでございます。おおよそルンビニーの歴史的背景、それから今回の発見の意味というものを私なりに大ざっぱに申し上げました。

仏教とマルチメディア・インターネットの可能性

平成八年度 教化セミナー

日時 平成八年七月一日(月) 午後一時より
 場所 築地本願寺 第二伝道会館(東京・中央区)
 内容 講演 脇 英世氏 (東京電気大学教授)
 各宗派からのパネラーによるシンポジウム
 お問い合わせ・お申し込み 全日本仏教会社会部
 電話〇三―三四三七―九二七五

同宗連総会

四月二十四日、午後一時半より、第十六回『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議(同宗連)総会が、東京・日本カトリック会館において開催された。議事は一九九五年度事業・決算報告と承認に続いて、一九九六年度事業計画・予算案の質疑承認が行われた。また、啓発用テキスト第二集『歩むべき道をもとめて』が発刊されたことが報告された。

同和委員会

四月二十二日午後一時半より、天台宗務庁で、第一回委員会が開催された。委員長に田中郁朗師(浄土真宗本願寺派)、副委員長に佐々木兼俊師(高野山真言宗)を選出した。

ルンビニー委員会

また、五月十四日の本願寺同朋センターでの第二回委員会では、第十六回同和研修会の詳細が検討され、六月二十八日(金)午前十時より、京都長岡京市・西山浄土宗総本山光明寺で、斉藤陽一氏(信州農村開発史研究所員)を講師に実施されることが決定された。

四月二十三日午後二時より、智山派宗務庁で第一回のルンビニー委員会が開催された。白幡理事長よりあいさつ、続いて議事に入り、委員長に川井匡俊師(浄土宗)、副委員長に佐々木孝一師(曹洞宗)が再任された。平成七年度事業報告に続き、委員長よりネパール・LDTの現況について報告された。また今後の事業の遂行について、正副委員

長・委員相互・事務総局が密接に連絡を取りながら進めて行くことが確認され、川島宏之委員(高野山真言宗)には、事業遂行等の特にご尽力いただくことになった。

事務局録事

五月

七日 万民平等差別戒名追善法要参列

九日 法律相談室

十三日 局内会議

十四日 同和委員会

十六日 監査会

二十日 総務委員会

二十二日 神社本庁五十周年記念式典出席

二十三日 法律相談室

二十七日 日宗連理事会

二十八日～三十日

WFB執行委員会出席

二十九日・三十日

西山浄土宗管長退・晋山式出席

三十一日 局内会議

理事会

哀 悼

鎌原佑元師 (元全仏常務理事)

四月二十二日 七十四歳で遷化

曹洞宗元総務部長